



今回の高校生による海外エネルギー事情研修会に参加させていただき私は、エネルギーに関わるさまざまな知識を身に付け、海外の文化や考え方に触れることができました。

【高校生との交流】

今回の研修ではフランスのグリニャール高校とスウェーデンのヴァッテンフォール高校に訪問させていただきました。どちらの高校生も自分と比べて、環境のことやエネルギーのことについて強く関心を持っていました。私はこの研修に参加するまでエネルギーのことについて少しの知識しか持っていませんでしたが、交流した高校生たちは幼い頃から学校での自然環境について考える活動や、原子力発電所の見学などを通して関心を持ってきたと話していて自分も見習わなければならないと感じました。特に私が印象的だったお話は、グリニャール高校がある地域では原子力関係の施設で不具合などが起きた際に家のポストにそれについての情報が投函されるというものです。一見信用が低くなってしまいそうな情報でもしっかりと正しい情報を伝えることでその地域に住む人々の原子力発電に対する理解が高いことに繋がっているのかもしれないと思いました。日本でも原子力発電を行うために怖がらせる情報だけでなく、現在行なっている対策や原子力発電の有用性を広く伝えていくことが大切だと思いました。

高校生との文化交流では日本のグミやけん玉、折り紙などを紹介しました。私は日本のグミが大好きなので海外の方が日本のグミを気に入ってくれるかとても楽しみにしていました。日本のグミは五種類のグミを食べてもらいお気に入りのグミを選んでもらうという形をとりました。フランスの高校ではやわらかくて甘いピュレグミが圧倒的に人気でした。スウェーデンでもやわらかいピュレグミが人気だと思っていたのですが、私の予想に反してスウェーデンでは硬いタフグミがとても人気でした。スウェーデンのグミを食べてみた時にとっても硬かったのでスウェーデンの方は硬いグミが好きなのかもしれません。また、けん玉や折り紙などを見せながら伝えて一緒にできた時が一番嬉しかったです。英語で説明するのが難しくても身振り手振りや表情を豊かにして伝えることを大切にしました。交流後に楽しかったと言ってもらえたことも嬉しかったです。

【ラ・アーク再処理工場】

フランスで訪問したラ・アーク再処理工場では実際に稼働している工場の見学をできて貴重な経験になりました。ラ・アーク再処理工場では使用済み核燃料の約96%が再処理され、メロックス工場ではMOX燃料を作っています。工場内では常に放射線量わかる機械を使用していました。数値は見学中0のままに施設内の安全性を見ることができました。また、工場内の燃料を扱う際は人が内部に入らずにロボットアームなどの機械を使用していました。ロボットアームを練習する場所もあり、しっかりと訓練した上で実際に使用するそうです。機械はガラス越しに目で見ることができます。

一見あまり厚さがないガラスに見えても1メートル近くの厚みがあるそうで衝撃でした。施設内を見学することでどのように工場の安全性を守っているかを知ることができました。

【フォルシュマルク中・低レベル放射性廃棄物貯蔵施設】

中・低レベル放射性廃棄物貯蔵施設は拡張工事のため見学できず、使用済み核燃料の最終処分について話を聞きました。スウェーデンのフォルシュマルクではフランスと異なり使用済み核燃料のリサイクルを行わずにカプセルの中に保存して地下深くに処分するそうです。国によって使用済み核燃料の処理方法に違いがあることがとても興味深かったです。スウェーデンは地盤がとても強く日本と違い、地震が全くないという特徴もあります。銅のカプセルとスウェーデンの強い岩盤とベントナイトという機密性がとても高い素材の3つの構造で安全性が確保されます。現在最終処分地の建設が進められていて、そのために地層や生態系の調査を行なっているそうです。その地域の特性をしっかりと調べて把握することの大切さを感じました。私が一番印象的だったことは地下の最終処分場が完成したら関連施設を全て取り払い自然に戻すという点です。スウェーデンの自然を大切に、自然を借りたら自然に戻すという考え方が表れていて自分も取り入れたい考え方でした。

【環境モデル都市】

スウェーデンの環境モデル都市を訪問して印象的だったのはほとんど自動車を使用せず、徒歩や自転車を利用しているところです。青森県では移動手段といえば自動車なので自動車を利用せずに生活していることにとても驚きました。自転車が冬でも通れるように自転車道が雪かきされていたのでそういった設備が整っているからこそ自動車だけに頼らないような生活が可能なのかなと思いました。また、リサイクル設備も整えられていました。家の近くにリサイクルのためにゴミを分別して入れるゴミ箱があり、そこに入れたゴミがリサイクル施設に送られる仕組みがありました。

建物の屋上に植物や太陽光パネルを設置したり、道に植物を植えて水捌けをよくしたりなど景観と利便性がどちらも考えられていると感じました。近くに森があり、自然豊かでとても素敵な空間だったので私も住んでみたいと思いました。

【文化】

私はその国ならではの食べ物や建物を楽しみにしていました。フランスは出されるパンが全部美味しく、チーズやオレンジなどもすごく美味しかったです。レストランでは日本ではあまり見かけない食材や組み合わせの料理を食べる機会がありました。中にはあまり好みではないものもありましたが、その分、強く印象に残る経験になりました。スウェーデンの食べ物はフランスよりも日本に近いような味付けで美味しかったです。かなりしょっぱいものが多かったです。スウェーデンのしょっぱいグミを食べた時は衝撃でした。注文、買い物をする時などは堂々と話す

ように心がけていましたが、自分の言葉が伝わるかどうか内心ビクビクしてました。フランスのモン・サン・ミッシェルやルーブル美術館では、フランスのキリスト教に関わる歴史や、時代によって変化してきた建物や絵画を感じることができました。フランスもスウェーデンも都心部がビルが立ち並ぶ様子ではなく昔ながらの景観が守られていて感動しました。

【最後に】

今回の研修を通して、これまで深く考えることのなかったエネルギー問題に強い関心を持つようになり、日本の将来のエネルギーのあり方について考えるようになりました。エネルギー問題は単純なものではなく国の地理的特徴や考え方の違いが影響していることを知りました。また、プレゼンテーションや文化交流を通して、どのようにすれば自分の考えや思いを相手に分かりやすく伝えられるのかについても学ぶことができました。

この研修と一緒に参加したみんなと初めは緊張してなかなか話せませんでしたがいろんな話を共有して絆を深めることができました。さらに、このような貴重な研修に参加させていただき、支えてくださった青森商工会議所や東北エネルギー懇談会の皆様に、心から感謝しています。ここで学んだ知識や経験を活かしてこれからの成長に繋げていきたいです。

